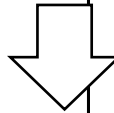


公立大学法人金沢美術工芸大学
令和4年度業務実績報告書
論点整理表

金沢市公立大学法人評価委員会

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (2) 教育の実施体制等に関する目標

中期目標 教員の資質能力の向上及び教育環境・学習環境の整備に努めるとともに、キャンパス移転を踏まえた教育組織の改編・改革を行う。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
<p>(I) 学生による授業アンケートに基づく教員の授業改善計画書を作成、公開し、授業改善を推進する。</p> <div data-bbox="190 877 896 1276" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>〔質問・意見等〕 なぜ評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR4年度に拡充した部分など)を具体的に説明してほしい。 年度計画にはSD活動の実施を掲げているが、その実施状況も説明してほしい。</p> </div> <div data-bbox="448 1276 784 1436" style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>〔次頁へ〕</p> </div>	<p>(ス) 教務委員会、学生支援委員会、大学院運営委員会、学生相談室及び事務局が連携するとともに、必要に応じて自己点検・評価実施運営会議等とも協力して、教職員の組織的な研修（FD・SD活動）を実施する。</p>	<p>○学生相談室、事務局が主体となって、保健師によるゲートキーパー（学生の自殺防止）についてのFD研修会を12月8日大学院研究科委員会終了後行った。これを受けて、5年度は学生向けに、こころの健康づくり講演会を開催することとしている。 ○教務・学生支援合同会議を2月27日に開催し、卒業・修了制作展のあり方、学生のメンタルヘルスやハラスメント防止についての各専攻の状況、休退学者の人数の推移、教育的配慮・合理的配慮等の支援の取組内容等について情報を共有することをもとに、5年度に向けての学生への支援について検討した。 ○3月19日にFD活動として「表現の現場調査団：教育機関用リーフレット」を使って彫刻専攻の津田准教授を講師として芸術活動におけるハラスメントについての研修を行った。 ○上記3項目は、年度当初には計画していなかったものの、学生の心理面における支援の必要性の高まりを受け、急遽取り組んだものである。 ○教務委員会では新型コロナウイルス感染症に関する状況の変化にあわせて、大学全体としてどのようにして授業や学生の制作・発表が継続できる方法を探った。 その際には、各専攻での授業方法の共有化を図るとともに、例年通り、随時、休学者・退学者・留年者を含む単位未習得者について各科・専攻からの説明を求め、学生個々の状況を把握した。また、5年度に向けて、段階的に通常授業に戻すための方策を検討した。</p>	IV		27-1 27-2 27-3

27

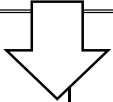
大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (2) 教育の実施体制等に関する目標

中期目標 教員の資質能力の向上及び教育環境・学習環境の整備に努めるとともに、キャンパス移転を踏まえた教育組織の改編・改革を行う。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
<p>〔回答〕 ※前頁より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生のメンタルヘルス関係のFD研修は、年度当初は予定していなかったが、コロナの長期化等の影響による必要性の高まりに対応するため急遽開催した。 <ul style="list-style-type: none"> ・保健師によるゲートキーパー研修(12月8日) ・教務・学生支援合同会議における情報共有、検討(2月27日) ・ハラスメント研修(3月19日) ・上記について、会議における検討から実際のFD研修の実施まで、スピード感を持って取り組んだ。 ・SD活動実績 22件 のべ59人(資料59より) <ul style="list-style-type: none"> ・2024年以降の入学者選抜制度に関する勉強会 ・公立大学協会図書館協議会 ・公立大学法人における個人情報保護法改正に伴う実務者勉強会 ・人権研修 ・公務員倫理研修 等 					

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (3) 学生への支援に関する目標

中期目標 多様化する学生のニーズに対応するため、学生一人一人に寄り添った柔軟できめ細やかな学習支援、生活支援、進路支援等を推進する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
<p>(ウ) 学生のメンタルヘルス、合理的配慮等について、全学的な啓発・相談・支援体制を検証し、さらなる活用を進める。</p> <div data-bbox="224 638 896 1021" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>〔質問・意見等〕 なぜ評価がⅣなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR4年度に拡充した部分など)を具体的に説明してほしい。 学生生活実態調査の結果を教育活動、学生支援施策へ反映させたその具体的な内容を説明してほしい。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div> </div>	<p>(カ) 修学支援及び学生生活支援の向上に資するため、新たに学生生活に関する実態調査を行い、実態の把握に努める。</p>	<p>○学生生活の実態を把握し、修学支援及び学生生活支援の向上を図るための基礎資料として学部2～4年生、大学院修士課程2年生、博士後期課程2・3年生全員（休学者を除く）を対象に、新たに学生生活実態調査を4月に行った。アンケートの結果については学生支援委員会、自己点検・評価実施運営会議、教育研究審議会等で共有し教育活動、学生支援施策へ反映させた。</p>	Ⅳ		33
<p>〔回答〕 ・調査結果は、専攻の研修旅行先の再検討や、新キャンパスでの憩いの場のあり方の検討等の資料とした。 ・調査の結果、学生食堂についての要望が特に多かったことを受け、10月に追加調査を行って詳しく意見を聴取した。その結果に基づいて、食品関連企業への聞き取りなどに取り組んだ。</p>					

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (3) 学生への支援に関する目標

中期目標 多様化する学生のニーズに対応するため、学生一人一人に寄り添った柔軟できめ細やかな学習支援、生活支援、進路支援等を推進する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(ウ) 学生のメンタルヘルス、合理的配慮等について、全学的な啓発・相談・支援体制を検証し、さらなる活用を進める。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>〔質問・意見等〕 なぜ評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR4年度に拡充した部分など)を具体的に説明してほしい。</p> </div>	(ク) 学生のメンタルヘルス、合理的配慮等について、全学的な相談・支援体制を検証し、その啓発に努める。	○3年度に続きコロナ禍のため、対面での学生ガイダンスに代わりホームページの学生相談室コラムで学生に対して随時情報発信を行った。 この中には、メンタルヘルスに関する話題も取り入れるとともに、コラムは月ごとに更新することで、全ての学生に対して学生相談室の活用を呼びかけるとともに以下の内容を提供することができた。 ・10月26日 女子学生対象「自分の身の守り方 護身術講座」18名 ・11月2日 美大祭向けに、ハラスメント注意喚起のためのチラシを作成・配布 ・11月4日 学生（主に男子学生）20名と教員2名が妊婦体験 ・11月21日～30日 パープルリボンキャンペーンに参加し学生相談室前廊下を紫にライトアップすることでそのメッセージを送った。 ○合理的配慮に関して学生便覧で周知した。事務局、専攻教員、学生相談室等を通して、学生自身から教務学生支援担当理事が相談を受け、関係教員等と検討し実技を含むそれぞれの授業に応じた適切な合理的配慮を行った。一年を通して複数の相談、申請を受け付けた過程において、合理的配慮の相談体制については周知を図ることができたが、さらなる改善のため、今後の進め方について教務・学生支援合同会議でも事例を共有し意見交換を行った。 ○学生相談室、事務局が主体となってゲートキーパー（学生の自殺防止）についてのFD研修会を12月8日（木）大学院研究科委員会終了後行った。これを受けて、5年度は学生向けに、こころの健康づくり講演会を開催することに決定した。	IV		27-1 35



大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (3) 学生への支援に関する目標

中期目標 多様化する学生のニーズに対応するため、学生一人一人に寄り添った柔軟できめ細やかな学習支援、生活支援、進路支援等を推進する。

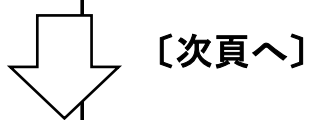
中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号
<p>〔回答〕 ※前頁より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合理的配慮については、授業に実技を多く含むという本学の特性上、相談の都度、個別対応ともいえる丁寧な対応を行った。 ・項目34とも重なるが、学生相談件数の増加に対応するため、学生相談室の開室時間を急遽倍増させた。さらに5年度以降に向けて予算化を行った。 ・「こころの健康づくり講演会」の実施方法について、少人数(約65人)ずつ全学生が受講する仕組みとし、5年度開始に向けて準備を行った。 					

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究内容等に関する目標

中期目標	芸術分野における高度で多様な調査・研究を推進するとともに、大学の特色ある研究活動の成果を広く国内外に発信する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号
(イ) 金沢をはじめとする地域文化について、工芸の継承と発展など本学独自の視点による調査・研究に取り組む。	(イ) 「平成の百工比照」収集作成事業として、漆工・陶磁・染織・金工の各分野の収集・整理を進め、金沢の地域文化の発展に資する研究に取り組む。	<p>○本学の美術工芸研究所では「平成の百工比照収集事業」を実施しており、金沢の地域文化の発展のために、ものづくりにおける素材と技術、工程を学ぶ教育を充実させる研究に取り組んだ。</p> <p>○3年度に引き続き、国立民族学博物館との連携協定に基づき、「平成の百工比照コレクションデータベースを基に、高等教育におけるデータベースの在り方及び活用手法について検証するとともに、社会連携事業と連動させることにより、高等教育教材の実用化を目的とする研究」を推進した。</p> <p>3年度の1回目につき4年度では2回目の高等教育教材（映像）の制作を行った。本映像は、平成の百工比照コレクションの成り立ちや活用方法までを説明するもので、全国の博物館学芸員課程で活用できる貴重な資料となった。3年度は「平成の百工比照 金沢が進める日本の工芸技術継承プロジェクトの背景」、4年度は「平成の百工比照 文化資源としての意義とデータベースが開く可能性」とした資料を作成し、5年度にもう一件制作して完結する。</p> <p>○従来的一般公開に留まらず、専門的な研究者や民間の産業従事者がデータベースを駆使し、新たな技術研究や製品開発を行うなど、「平成の百工比照」を産業分野においても活用できる環境整備を目指している。その一環として、引き続き、美術工芸研究所ギャラリーにおいて、平成の百工比照の全資料を対象とする検索システムを稼働した。</p>	IV		51

〔質問・意見等〕
 なぜ評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR4年度に拡充した部分など)を具体的に説明してほしい。



大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
(1) 研究内容等に関する目標

中期目標

芸術分野における高度で多様な調査・研究を推進するとともに、大学の特色ある研究活動の成果を広く国内外に発信する。

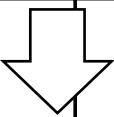
〔回答〕 ※前頁より

・4年度に作成した高等教育教材(映像)も、新キャンパスの「平成の百工比照コレクション」コーナーにおける展示や、さらには本学のみならず全国の博物館過程で活用できる質の高い資料となった。3ヵ年計画であることから、3年度に引き続きIV評価とした。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究内容等に関する目標

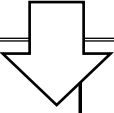
中期目標

芸術分野における高度で多様な調査・研究を推進するとともに、大学の特色ある研究活動の成果を広く国内外に発信する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号
<p>(ウ) 本学が取り組む研究の成果を蓄積し、積極的な発信に努める。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>〔質問・意見等〕 なぜ評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR4年度に拡充した部分など)を具体的に説明してほしい。</p>  </div>	<p>(カ) 柳宗理コレクションの調査研究を継続するとともに、デザイン教育の充実のために活用するほか、市民向けのデザイン啓発事業を展開する。</p>	<p>○柳宗理記念デザイン研究所では、寄託作品調査の基盤情報の取りまとめ及びその成果の展示やウェブサイトでの公開を引き続き行った。公式フェイスブックページで研究所での展覧会の情報を随時発信した。 ○柳宗理記念デザイン研究所は、感染防止対策を徹底して開館し、学生や市民の制限付きの閲覧を可能とした。4年3月25日から7月25日までミニ企画「柳宗理の眼×日本の道具」を開催した。 ○展示資料室1内に常設展示「柳宗理デザインの産地」を新設、展示資料室2内に常設展示パネル「日本各地に残る柳宗理デザイン」を新設した。 ○酒井和平名誉教授によるオンライン講演会「金沢美術工芸大学・工業デザインの誕生と柳宗理先生」を制作編集し、本研究所のYouTube公式チャンネルと公式FaceBook、及び本学webサイトで公開した。 ○金沢美大柳宗理デザインミュージアム（仮称）については学内にワーキンググループを設け、今後の大学としての活用方針について協議を行った。</p>	IV		55-1 55-2
<p>〔回答〕 ・オンライン講演会の題材は、柳宗理氏が本学で教鞭を執っていた当時の授業内容に触れたものであり、当時を知る方も少なくなる中で記録を留める最後のチャンスであった。柳氏の人となりを表すエピソードなど、他では聴くことのできない内容のものであったため、視聴者から大きな反響があった。 ・柳宗理コレクションの調査研究に関しては、金沢市の依頼により約7,000点の寄託作品の評価を実施した。総額は約1億5,000万円であった。</p>					

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
 (1) 国際化に関する目標

中期目標 海外の交流協定校を拡充し、教育・研究における国際交流を推進するとともに、学生の派遣・受入を行い、国際的な視野を持った人材を育成する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号
(ア) 海外の交流協定校との間で学生の派遣・受入を行い、国際的な視野を持った人材を育成する。また、協定校を拡充し、教育・研究における国際交流を積極的に推進する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>〔質問・意見等〕 なぜ評価がIVなのか(年度計画を上回って実施している部分もしくはR4年度に拡充した部分など)を教育の国際化に与えた影響を含めて具体的に説明してほしい。</p>  </div>	(イ) アーティスト・イン・レジデンス事業を実施し、教育の国際化を図る。	○新たに民間企業と連携し、「金澤町家」を活用したアーティスト・イン・レジデンス事業を実施した。近年戸数が減ってきている「金澤町家」を保存・活用することで、地域貢献を目指す同社と、国際交流の拡大を図り、芸術分野における情報発信を積極的に行いたい本学とが連携・協力し、2名のフランス人アーティストを受け入れた。 アーティストはフランスのヨーロッパ・外務省の文化機関であり、アンスティチュ・フランセ日本の支部の一つであるアーティスト・イン・レジデンス「ヴィラ九条山」（京都府京都市）から招聘した。 2名のアーティストは金澤町家に居住し、金沢の街並みや文化・歴史等からインスピレーションを得て創作活動に取り組むとともに、学生との交流も行った。	IV		77

〔回答〕
 ・事業実施の枠組みとして、フランスの外務省関連施設と連携し、当該施設に滞在するアーティストを招聘することとした。そのため、高い資質を持つアーティストを継続的に招聘でき、本学の国際化の水準が高まることになった。また、本学とフランス外務省とのつながりも構築することができた。
 ・滞在アーティストは、デザイン科の授業に参加したり、学生と直接対話しながら版画についてのワークショップを行い、学生からも好評を得た。